フランス語インテンシブ 3
シラバス
慶応義塾大学 SFC 2008 年春学期

インテンシブ3は、インテンシブ4へと学び続ける展望の中で、基礎を固めながら中級レベルに入っていく段階です。ここを甘く見て疎かにすると、将来にわたって、ご愛敬程度のいい加減なフランス語しか身につきません。入門期の「教えてもらう」という依存的な姿勢をきっぱりと脱して、強い主体性のある学習者となる人と、そうでない人の間で、決定的な差がついていくのがこの時期です。フランス語学習において、今や「攻め」に転じましょう！　もっとも、焦りは無用です。大事なのは、着実にたゆまず勉強すること。そうすれば必ず結果がついて来ます。

インテンシブ3の目安としての到達目標は、DELF のB1資格取得、仏検2級合格、そしてTCFで300-399 点程度のスコアを得ることができる実力を獲得することです。

インテンシブ3では、コース別に2クラスを編成します。
学生諸君には、自分のフランス語学習の目的を見据え、自分の適性や学習スタイルを踏まえて、予めA・Bクラスのいずれかを選んでいただきました。それぞれ、希望したクラスに登録されているはずです。

クラス	火曜・水曜	木曜・金曜
A	両クラス合同コア授業 （文法の理解と総合的演習）	「読み書き」に重点を置くコース別授業
B		「話す・聞く」に重点を置くコース別授業

■ コア授業： A・B両クラスの履修者へ

火曜日と水曜日の授業はＡクラスとＢクラスの合同で、インテンシブ3のコア授業を行います。2つのコースの共通の幹を成す授業だと理解してください。読む・書く・聞く・話す力を総合的につけることを目指しますが、特に火曜日は文法のしくみを中心に学び、翌水曜日にはその応用練習をします。火曜と水曜の授業は密接に関連しあって構成されています。

1. 教科書
   Grammaire Progressive du Français (Niveau intermédiaire) Nouvelle édition, CLE international
   各自 SFC 生協にて購入して下さい。価格は 3000 円を少し上回ります。

2. 担当教員
   火曜2限　古石篤子
   水曜2限　Vincent DURRENBERGER

3. 授業スケジュール
   扱う項目は次のように予定していますが、場合によって幾分の変更もありえます。

週	扱う文法項目
1	復習、フランス語の5文型
2	代名詞(1)： 形と位置　代名詞(2)： *en, y, le*
3	所有代名詞　指示代名詞　ジェロンディフ
4	過去時制(1)： 複合過去形　態： 受動態
5	過去時制(2)： 複合過去形／半過去形／大過去形
6	時の表現　間接話法(現在)
7	関係代名詞： *qui, que, dont, où, lequel*
8	未来時制： 近接未来形／単純未来形／前未来形
9	条件法と仮定表現
10	間接話法(過去)
11	論理的関係(1)
12	論理的関係(2)、接続法(1)
13	接続法(2)、最後の授業は期末試験

4. 成績評価

- コア・クラスの持ち点はインテンシブ3全体の50／100点です。50点のうちの20点が期末試験、15点が古石の授業に関する評価、15点が Durrenberger の授業に関する評価に割り当てられます。
- 期末試験は 1 回だけ行い、両教員が合同で出題します。追試はありません。

■ 読み書き重点コースの授業：Aクラス所属の履修者へ

木曜日と金曜日は、コース別の授業を行います。フランス語の文章に向き合うことによって、知的で厳密なフランス語への習熟を図るのが、読み書き重点コース(Aクラス)の本旨です。

インテンシブ3から4へと継続して、フランス(語圏)の文化や社会に関する知見を深めつつ、複雑な構文を苦にせず、さまざまなテーマ研究の中で出会う文献・資料を正確に読み取る力、自分の思考内容を明快に記述する力、つまり、単なる会話を超えて中身の濃いディスカッションを行う際の基礎になるような堅固なフランス語力を養っていきましょう。

インテンシブ3では、ハンガリー出身・スイス在住のある作家が書いた簡潔無比の自伝的物語*L'Analphabète* を2週間に2章ずつ(6-10 ページ)念入りに読み進めながら、文法・語彙・表現の力を養っていきます。

1. テクスト KRISTOF, Agota：*L'Analphabète*, Zoé, Carouge-Genève, 2004
（4 月 10 日の授業の折に、抜粋を教室で配布します。）

2.　自習教材

『1からはじめるフランス語作文』山田博志、F・ヴィラン共著　白水社

各自生協で購入して、4月11日（金）の授業のときに持参してください。

3.　担当教員

木曜2限：クレール・ジャクマン／堀茂樹　（週毎に交替）

金曜2限：山根祐佳

4.　学習のリズム

テクストの各章を基本的に次のプロセスを経て消化していきます。

1）　導入、テクストの全体的理解、補足説明、前章の語彙と理解度のチェック　（担当：堀茂樹）
2）　テクストの理解、文法・統辞法の説明・演習、自習教材に関する指示（担当：山根祐佳）
3）　テクストに付随するエクササイズ、ディスカッション、書き取りテスト（担当：C・ジャクマン）
4）　テクストの細部にわたる理解、全体の復習・まとめ、和文仏訳テスト（担当：山根祐佳）

5.　授業スケジュール（概略。幾分の変更はあり得ます。）

週	インテンシブ３（Aクラス）進行表
1	導入
2	*Début* と題されている章（以下、同じ） *De la parole à l'écriture*
3	*Début* *De la parole à l'écriture*
4	*Poèmes* *Clowneries*
5	*Poèmes* *Clowneries*
6	*Langue maternelle et langues ennemies* *La mort de Staline*
7	*Langue maternelle et langues ennemies* *La mort de Staline*
8	*La mémoire* *Personne déplacées*
9	*La mémoire* *Personne déplacées*
10	*Le désert* *Comment decient-on écrivain ?*
11	*Le désert* *Comment decient-on écrivain ?*
12	*L'analphabète*
13	*L'analphabète*　／（学期末試験）

6.　成績評価

コース別授業に対応する点数は、インテンシブ３全体の50/100点です。

平常のテストと学期末試験の結果にもとづき、授業への参加度も加味して、担当の

3教員が総合的に各履修者の成績を評価します。

■ 話す・聞く重点コースの授業：Bクラス所属の履修者へ

木曜日と金曜日は、コース別の授業を行います。話す・聞く重点コース（Bクラス）では、徹頭徹尾、音声言語としてのフランス語をへの習熟を図ります。

話題の文脈や場の状況に応じてスピーディに会話に加わり、聞き取りやすい発音と適切な表現を駆使して筋の通った意見を述べることができるような、自己表現能力・実践的な口語コミュニケーション能力を養っていきましょう。

1. 機材

購入すべき教科書や副教材は一切ありませんが、IC レコーダー等、録音の道具を持参することを推奨します。暗誦用テクストの発音など、授業中の「音声情報」を手元に残す必要があるからです。

2. 担当教員

木曜2限：塩田明子
金曜2限：パトリス・ルロワ

3. 授業内容

毎回、どの教員が担当する授業の場合も、以下の 4 つのアクティヴィティをおこないます。

なお、授業中は基本的に、筆記用具の使用は許されません。履修者は、説明を聴いてノートを取りながら頭で理解していくというタイプの学習をするのではなく、身体的に言語運用を実践しながら音声と音声の組み立て方を身につけていくことになります。

① 予め配布しておいたフランス語の文章（テクスト）を履修者一人ひとりが暗誦する。各学期中に、比較的平易なテクスト6つと、比較的難しいテクスト6つ、1週間に1つずつで計 12 のテクストを扱う。各テクストは単純なフレーズから成り、いくつかのキーワードを含んでいる。履修者は毎回、暗誦できるように用意して授業に臨むとともに、そのテクストについて論拠のあるコメントを準備して来ることとなる（20 分余）。

② DVD に録音されている CM を材料とする聞き取り、言い換え（ex.現在形を過去形に転じる）、ヴァリエーション（ex. もとの CM の改変を想像し、条件法で語る）の演習（20 分余）。なお、おそらく授業時間外に2人1組で CM を作ることとなり、それも評価対象となるだろう。

③ 口述描写の演習。毎週、4つの対象をオーラルで描写する。1学期 12 週間の授業で計 48 の対象を取り上げることとなる。この演習をとおして、さまざまな言い回しが身につき、ある程度長いフレーズを用いることにも慣れていく（20 分余）。

④ 「ドラマトロジー」（これは造語）と称し、スタニスラフスキー・システムと呼ばれる演技理論にもとづき、寸劇的なやり取りを実践する。ここでは、言語だけでなく、身体表現も大きくものを言う。リアルな状況の中での自発的・即興的な口語コミュニケーションの演習（20 分余）。

4. 成績評価

ふだんの教室活動を評価します。学期末試験は行いません。但し、学期末に近づけば近づくほど、その学期中の積み上げが評価対象となります。たとえば、学期末には、授業で扱った計 12 のテクストをすべて、いつでも暗誦できることが求められます。口述描写についても同様です。

■ 出席について

「出席点」はありません。出席それ自体は、成績評価においては考慮しません。

しかし、1回、2回と欠席して休み癖がついてしまえば、学習の積み重ねができず、たちまち遅れをとって、結局脱落するということ、また、ただ漫然と、毎回受け身の態度で出席していても、語学は身につかないということ、予習復習が絶対的に必要だということを強調しておきます。

■ レクチャー（Conférences）

学期中に、2回の講演会を実施します。

5月 28 日（予定） M. Etienne BARRAL, journaliste indépendant
Cf. http://www.barral-office.com/cooljapan/
（演題は後日、フランス語研究室ホームページに発表します。）

6月 13 日 Mme Marthe VASSALLO
« Region, tradition et nation sont-elles solubles ? Un exemple: la Bretagne » (*titre provisoire*)
「地域と伝統とネーションの間の関係は解決可能か？ ― ブルターニュ地方を例として ― 」（仮題）

Conférence は、インテンシブコースの一環です。
Conférence の日は、インテンシブの通常の授業は行いません。
時刻・場所については後日、メール連絡と、フランス語セクションのホームページに掲示します。

■ 気晴らし（Divertissement）

通称 Divertissement もインテンシブコースの一環で、インテンシブコース各レベルの全履修者が一堂に会する親睦の機会です。

今学期は、5 月8日（木）第 2 限に実施する予定です。

Divertissement の日は、インテンシブの通常授業は行ないません。

■ マルチリンガル・スペース

メディア・センター2階に「マルチリンガル・スペース」（通称 MMLS）があるのを皆さんは知っていますか。その空間には、CD-ROM、CD、ビデオ、雑誌、新聞、辞書、参考書（仏検、DELF・DALF 参考書も）などフランス語の勉強に必要なものが揃っています。

また、フランス語共同研究室隣のλ309 にもフランス語版 MMLS がオープンしてい

ます。先生や TA、そして SA もすぐ近くに居るので、何か質問があればいつでも尋ねることができます。その上、フランス語の放送 TV5 も見ることができます。大いに活用されたし！

■ チャレンジ

以下のフランス語能力資格試験・能力認定テストを積極的に受けることを奨めます。
（→ 日程などの詳細はフランス語研究室HPにリンクしてあるウェブサイトへ。）

- DELF/DALF → DELF B1合格へ！
- 仏検（実用フランス語技能検定試験） → 2級合格へ！
- TCF（フランス文部科学省認定フランス語能力テスト） → 300-399 点！

2008/04/03

慶應義塾大学SFCフランス語研究室